



SpectA
KY-Tool

「KYトレーニング」における KY-Toolの使い方

「KYトレーニング」での活用方法をご紹介します

■ 1カ月の安全管理業務(例)

月1回

週1回

日	月	火	水	木	金	土
3/26	27	28	29	30	31	4/1
2	3 特別安全朝礼	4	5	6	7 KYトレーニング	8
9	10	11	12	13 安全自主パトロール (現場)	14 KYトレーニング	15
16	17	18	19	20 安全パトロール (支店)	21 KYトレーニング	22
23	24	25	26 安全教育	27 災害防止協議会	28 KYトレーニング	29

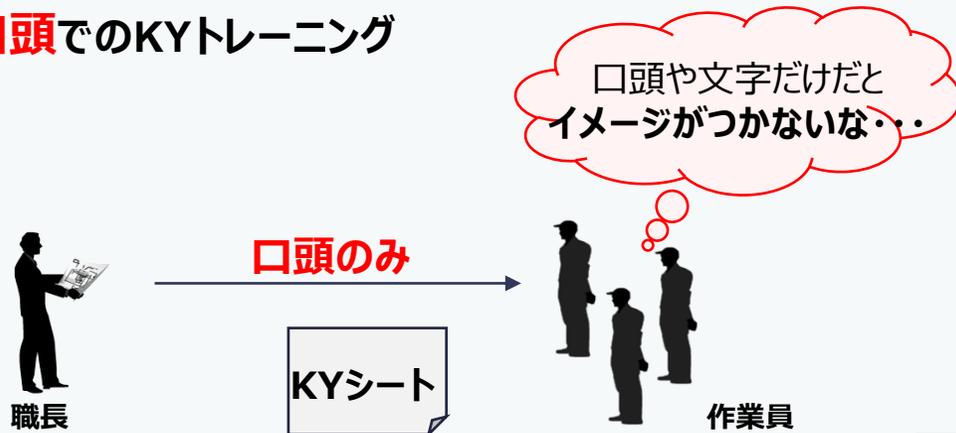
■ 各安全管理業務の概要

※安全指示準備およびKY活動は毎日実施する

業務名	実施者	KY-Tool 活用方法
特別安全朝礼	工事長・職員	当月・翌月の工事に関連した事例を題材にし、安全注意喚起を行う
安全自主パトロール(現場/支店)	工事長・職員	巡回時に指摘の題材となる災害事例を検索し、過去事例を提示しながら指導教育をする
安全教育	職員・職長	当月・翌月の工事に関連した事例を題材にし、安全注意喚起を行う
災害防止協議会	工事長・職員	翌月の工事関連したリスクアセスメント(リスクや対策の洗い出し)で活用する
KYトレーニング	職員・職長	事例の絵を活用しながら、職長や作業員でトレーニングを行う

イラストにより状況がイメージしやすくなり、具体的なリスク・対策を引き出します

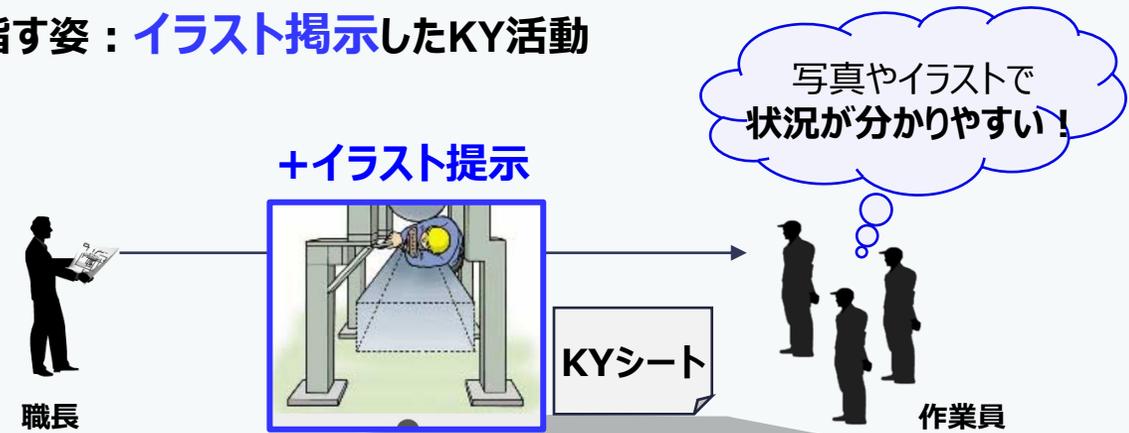
現状：口頭でのKYトレーニング



リスク・対策の一部抜粋

■ 作業員A
リスク：溶接時、火傷をする
対策：保護具の着用
■ 作業員B
リスク：開口部から墜落する
対策：安全帯の着用

目指す姿：イラスト掲示したKY活動



リスク・対策の一部抜粋

■ 作業員A
リスク：溶接時、 鉄筋に触り 感電する
対策： 電気を通しにくい 保護具を使用する
■ 作業員B
リスク： 手摺のない足場 の開口部から墜落する
対策： 高さ2m以上 の場所では安全帯を着用する

どの作業にもあてはまる **抽象的な発言**

作業に即した **具体的な発言** に変化

運用イメージ(概要)

① 図・写真の紹介 ② リスク洗い出し・評価 ③ 対策の記入 ④ 安全目標の記入
までKY-Tool上で行えます



◎ 詳細な操作方法は[KY活動](#)からご覧いただけます

図を大きく見せながらスムーズにKYトレーニングを行えます

帳票(管理用)

SpectA KY-Tool 2024/07/12 (金) 未承認 (0/3)

作業内容: 7/12の3番目_2要素非表示

作業指示書

危険予知活動表

発言者	第1R: どんな危険があるか				第3R: あなたならどうする			
	危険性	重大性	点数	第2R	危険性	重大性	点数	第2R
山田	作業服や溶接用手袋が発汗により濡れて感電しやすい環境になる	3	3	9	高温多湿な場所での作業を行うときには、扇風機を使用するなど作業環境の快適化をおこなう	3	3	9
田中	体の一部が溶接棒の先端部に触れ、電撃防止装置が作動して溶接棒が増導し感電する	2	2	4	作業者がアーク溶接作業を中断したときは、溶接機の電源を切らせること	2	2	4
佐藤	特別教育を受けていない作業者がアーク溶接の作業を行い、間違った操作方法で感電する	1	2	2	特別教育を実施すること	1	2	2

第4R: 私たちはこうする 高温多湿な場所での作業を行うときには、扇風機を使用するなど作業環境の快適化をおこなう

参加者署名: 山田 田中 佐藤

関連書類

天候情報

承認者サイン1

活用のポイント①

マイクアイコンで音声入力

→一人一人の発言がスピーディーに記録できます

活用のポイント②

関連書類の図をクリックピンチアウトにより拡大表示

→図により作業員が状況をイメージしやすくなります

関連書類タブを押下



出力形式を変えることで目的に応じたKYトレーニングを行えます

帳票(安全指示用)

SpectA KY-Tool

関連事例10001118 PDF

クローラクレーン
クローラクレーンの継ぎジブを延長する作業中、ジブが落下

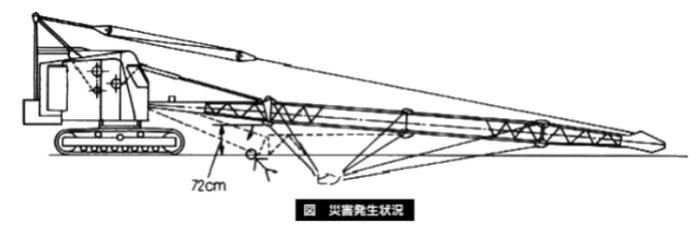


図 災害発生状況

その他
⚠ 飛来、落下
不明 死亡 死亡者数 1

リスク
ジブの解体にあたって、ジブを固定または支持しなかったこと

対策
同種災害の防止対策は、原因と考えられる事項の裏返しであり、クレーンのジブの組み立て、解体においてこのような災害がたびたび発生しているが、クレーン等安全規則では、このような作業においては作業指揮者を選任し、その者に作業の指揮を行わせなければならないこととされている。

メモ

© 2024 SOLIZE Corporation All Rights Reserved.

活用のポイント③

事例詳細画面から概略/画像のみ/詳細のPDF出力が可能

→目的に合わせたKYトレーニングを行えます

概略：発生事象や悲惨さを明確かつ端的に伝える

クローラクレーンの継ぎジブを延長する作業中、ジブが落下

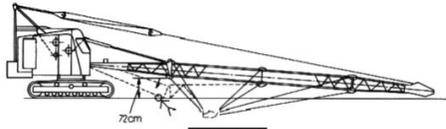


図 災害発生状況

その他
⚠ 飛来、落下
不明
不明 死亡 死亡者数 1

詳細：発生状況・要因や対策等を深く理解させる

クローラクレーンの継ぎジブを延長する作業中、ジブが落下



その他
⚠ 飛来、落下
不明
不明 死亡 死亡者数 1

○発生状況
本件災害は、ゴルフ練習場の防球ネット用のコンクリート支柱を立て込むために使用していたクローラクレーンのジブを延長する作業中に発生したものである。
災害発生当日の午後からは、長さ約24mのコンクリート支柱の立て込みを行っていたが、それまで使用していたジブ(約26m)では十分な長さがなく作業ができなかったため、クレーン運転士Aはクレーンを建設現場近くの駐車場に移動し、ジブを延長するための準備作業に取りかかった。
Aは、クレーンのジブを倒してその先端を地面に付け、近くの工場で継ぎジブを取りに行った。
その際、駐車場でのジブの延長作業の手伝いを同僚に依頼した。
継ぎジブを駐車場まで運んできたAは、Bとともに、継ぎジブ(長さ約6m)を1本置き足すため、継ぎ足す部分の本体の接続ピンから下部の足を強く作業始めた。
Aが作業を行っていたピンは簡単に抜けたが、そのまま作業を続けるとジブが落下してしまつたため、ピンをぬいた後の穴に差し込むためにあらかじめクレーンのわきに用意していたパルを取りに行った。
Bが作業をしていたピンがなかなか抜けないため、Bはその間もジブの真下に入りピンをハンマーでたたく作業を行っていたが、ピンが抜けると同時に、また落ちていた上部の接続ピンを中心にジブが折れ曲がり、その下敷きになってしまったのである。

○リスク
・ジブの解体にあたって、ジブを固定または支持しなかったこと
・ジブの解体の作業方法について、共同作業者との連絡が不十分だったこと

○対策
・同種災害の防止対策は、原因と考えられる事項の裏返しであり、クレーンのジブの組み立て、解体においてこのような災害がたびたび発生しているが、クレーン等安全規則では、このような作業においては作業指揮者を選任し、その者に作業の指揮を行わせなければならないこととされている。

○関連リスク・対策

画像のみ：要因や対策を時間をかけて考えさせる

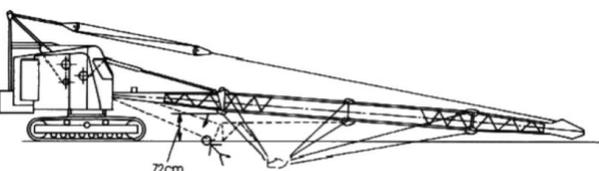


図 災害発生状況